

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立膳所小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査対象 小学校第6学年

○調査内容

◇教科に関する調査（国語、算数）

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

◇生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

○調査結果の概要

《概要》

国語科は全国平均に及ばなかったものの滋賀県の平均正答率を上回った。算数科は、全国の平均正答率を大きく上回る結果となった。国語科は例年並みで昨年と大きな差は見られなかったが、算数科については例年に比べてかなりよい傾向が見られた。質問紙調査では、「自分には良いところがある」・「人の役に立つ人間になりたい」等について肯定的な回答が多く、自尊感情の高い児童が多く見られた。また、その他の回答内容から規範意識の高い児童の割合が多いこともわかった。

《強み・弱み》

国語科では、文法など言語事項に関する学習内容に強みが見られた。一方で、「書くこと」の正答率が全国平均を下回り、事実と感想、意見とを区別して書く力や、自分の考えが伝わるように工夫して書き表す力に弱みが見られた。

算数科では、「数と計算」・「図形」で基礎的な知識の定着が見られ、全国平均を大きく上回った。図形の構成要素を正しく理解し、数量関係を適切に式に表す力が身についている。ここ数年同様の傾向が見られることから、強みとして定着してきていると言える。一方で、折れ線グラフから必要な数値を読み取ったり、計算の仕方を考えたり、説明したりする力については、弱みが見られた。

○指導の充実に向けて

- ◇考察したことを文章で表現する力を育成するために、いくつかの型をもとにして書く活動を意識的に取り入れる。
- ◇ICT機器を効果的に活用した学習形態を積極的に取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業をめざす。
- ◇学校で基礎的な学力を定着させるとともに、家庭学習の充実や学習習慣の定着を図る。

